

当面の日程

- 3日 平和人権環境のつどい (加古川市人権文化センター)
- 10日 県本部女子バレーボール大会 (明石市勤労福祉会館・体育室)
- 11日 県本部保育を考えるつどい(ひょうご共済会館)
- 17、27日 県本部野球大会(西宮市内)



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

自治労カップ少年野球大会

総勢68チームが熱戦

34団体より協賛を得る

県本部は2014年に結成60周年事業の青少年育成支援活動として、兵庫県軟式野球連盟と提携し、自治労カップ野球大会の運営を支援しており、今年で10回目の大会は5月3～6日、尼崎市ベイコム野球場などで開催された。

大会へは各地区予選を勝ち進んだ少年(中学生)36チーム、学童(小学生低学年)32チームが出場。少年の部では但馬代表の関宮・浜坂クラブが、学童

2023自治労カップ賛同団体

- 兵庫県職員労働組合/神戸市職員労働組合/神戸市従業員労働組合/神戸市交通労働組合/神戸農政公社労働組合/尼崎市職員労働組合/西宮市水道労働組合/伊丹市水道労働組合/市立伊丹病院労働組合/宝塚市職員労働組合/三田市職員労働組合/淡路市職員労働組合/南あわじ市職員労働組合/明石市職員労働組合/小野市役所野球部/加東市労働組合連合/加西市職員組合/姫路市職員組合/姫路市従業員労働組合/たつの市職員組合/宍粟市職員労働組合/相生市職員労働組合連合会/赤穂市自治労連合会/稲美町職員組合/播磨町職員組合/神河町職員組合/佐用町職員組合/豊岡市職員労働組合/公立豊岡病院組合/丹波市職員労働組合/丹波市役所野球部/丹波篠山市職員労働組合/自治労兵庫県本部直轄支部

の部では加古川市代表の東播ナインストリームがそれぞれ優勝し、兵庫県代表として近畿大会への切符を手にした。

なお、大会しおりへは選手や保護者、関係者に自分

たちの住む自治労単組や野球部なども大会を応援していることが理解できるような協賛金を募り、掲載された。協賛いただいた各単組、野球部の皆さんに感謝を申し上げます。



大会開会式の様子

「闘う」などの掛け声で取り組みを進めるが、その単語のイメージから取り組みにくい単組も出てくる。しかし、当局との交渉とは、そもそも年間スケジュールを組んだ「試合」に則った試合を行うことと同じ

単組の役員は多くは非専従役員であり、組合活動のプロ(専従役員)ではない。単組の課題解決に向け、働きやすい職場をめざし県本部・ブロックも単組の要求実現に向け一体となって取り組む。

「早く起きて歩いている」「朝活ですわね」の会話から、ふと「〇活」が最近やたらと使われている。まず思い浮かぶ「就活」も35年ほど前は普通に「就職活動」と言っていたので、それ以降に広がったのだろう。▼今や「婚活」「妊活」「終活」「腸活」などは、一般的な言葉となっているし、最近では「保活」「ラン活」「推し活」「涙活」「ソロ活」など、説明無しではわからないものもたくさんある。それぞれの活動は新しいものでもなくとも「〇活」と言われると、新鮮な感じがするから不思議だ。言葉の力は侮れない▼私たちが日々取り組む組合活動も、このブームに乗って「組活(くみかつ)」と呼んでみてはどうだろうか。「今日は団体交渉やねん。組活がんばってくるわ」って、少し組合活動が身近に感じないか▼新採のみなさん、就活おつかれさま。次は組活がんばりましょう。



6月期闘争に向けて意思統一を行った

5月12～13日に加西市で反「行革」組織集会を開催した。6月から始まる人員確保統一闘争をはじめとした各種闘争の強化と、単組執行部が抱えている課題や悩みなどお互いに出し合い議論を深めた。

集会には県内から57人が参加。主催者を代表し、山下忠之委員長は「人員増の課題では、組合員に見える形で取り組んでいくことが組合への信頼、意義になる。切実な職場の改善について、ブロックを超えた交流をお願いしたい」とあいさつした。

尾西亮太郎書記長は「今年度は『一歩前へ』を合言葉に組織の活性化に取り組

んでいる。具体的には、4月からの人員について『適正な配置を行う』との回答を引き出すことで、人員確保闘争の取り組みを前進させよう」と基調提起した。

講演では「自治労運動に問われていること」と題し、川本淳自治労本部中央執行委員長が講演。政治闘争において「人事院勧告でさえ政治に左右される。私

ちの環境では全てが政治に絡んでいるからこそ、政治闘争に敏感になる必要がある」とし、組織強化においては「新規採用者の組合加入が難しくなってきた。組合は数が力となる」と述べた。また、長年役員を歴

任した経験から「一人でも多くの組合員が関わっても多くの運動が重要であり、一人ひとりに得意・不得意があるが、お互いが補完することの良い流れとなる。一歩前に進む取り組みをお願いしたい」と提起した。

その後、各班に分かれ「強い組合とは」をテーマに意

見交換を行った。強い組合をキーワードに各参加者から単組の現状や考え方など意見を出し合い、単組で活用できそうな取り組みを持ち帰り、具体的な形にして前進することを確認しあった。

政治に左右されるからこそ敏感に

お互いが補完し合い組織強化に繋げる

チームで立ち向かう 産別闘争の活性化を



講演する川本本部委員長

いまいち座
マスクはまだはずせない!

おやすみ漫

しこう

「早起きして歩いている」「朝活ですわね」の会話から、ふと「〇活」が最近やたらと使われている。まず思い浮かぶ「就活」も35年ほど前は普通に「就職活動」と言っていたので、それ以降に広がったのだろう。▼今や「婚活」「妊活」「終活」「腸活」などは、一般的な言葉となっているし、最近では「保活」「ラン活」「推し活」「涙活」「ソロ活」など、説明無しではわからないものもたくさんある。それぞれの活動は新しいものでもなくとも「〇活」と言われると、新鮮な感じがするから不思議だ。言葉の力は侮れない▼私たちが日々取り組む組合活動も、このブームに乗って「組活(くみかつ)」と呼んでみてはどうだろうか。「今日は団体交渉やねん。組活がんばってくるわ」って、少し組合活動が身近に感じないか▼新採のみなさん、就活おつかれさま。次は組活がんばりましょう。

労働学校・基礎編

組合の必要性を意思統一

自分にできる組合活動さぐる

県本部教宣委員会は「単組執行部強化」「次世代育成」をめざし、パワーアップした労働学校・基礎編を5月18日に50人が参加し、ひょうご共済会館で開催し組合活動の基礎知識を学び、グループワークや参加者意見交換会で交流を深めた。

午後からは石井希佳共済県支部事務局長から「じちろう共済」について講演を受け、グループワークで講義についての感想や困っていることや不満、自分のできる組合活動は何なのか、そして単組へ持ち帰って組合をどう変えていくのかなどを議論した。

なしてタイムリーに提供できるようになった」などの最新情報を共有した。また、新規採用者の組合加入については「昼休みに弁当を提供し説明会を実施した」「スポーツ活動を通じて組合加入を呼びかけた」など加入促進について意見が出され、じちろう共済制度については「こんな良い制度はもつと積極的に組合員に説明すべき」「非営利で安いということをアピールするべき」など、じちろう共済を推進して行きたいとの発言もあった。

今回の労働学校は「実践編」として9月に神戸市内で開催する予定。基礎編参加者とはより、次期単組役員候補など今後の交渉力強化に向けて参加をお願いしたい。

5月21日投開票で実施された加西市議会議員選挙へは、自治労組織内候補として加西市職出身の深田照明さんが2期目をめざし立候補。定数15に対し16人が立候補する少数激戦となったが、深田さんは1270票

を獲得し7位で見事再選を果たした。また、市長選挙では県本部は西村前市長の後継として、川尻悟さん推薦決定し選挙戦に挑んだものの、残念ながら当選を果たすことはできなかった。

「私たちの権利」を戎副委員長がそれぞれ講演したのち、5つのグループごとに自己紹介と組合のイメージや組合活動への参加状況などを報告した。

参加者からは「職員専用入口に組合掲示板を設置し組合情報を掲示している」「組合員専用アプリを導入し、組合情報が個人のスマホで確認でき、印刷發送

「憲法はあなたの命と未来のサポーター」をスローガンに5月3日、神戸市みなどのもり公園で、5.3ひょうご憲法集会が開催され、今年はコロナ禍前の集会規模に戻して実施された。主催者を代表してあいさ

位の軍事大国へと進もうとしている。反撃能力を保有すれば、他国に脅威を与えるものであり、ミサイルなどの武器の開発・購入は専守防衛のタガを外すものである。憲法9条を生かした

外交、それが最も合理的な安全保障政策である」と訴えた。神戸市出身で俳優の松尾貴史さんは講演で「憲法は国の骨組みであり、権力を縛り暴走をさせないもの。しかし今、政治家が憲法を変えようとしている。都合が悪いから変えることは、泥棒が刑法を変えるのと一緒ではないか。いま一度、憲法とは何か？語り合う機会が必要」と憲法によって国民は守られていることの重要性を指摘した。

最後に憲法アピールを高校生平和大使の長富日向さんが読み上げ、参加者は平和な日本、平和な世界を作ることをめざしていこうと確認し合った。



50人が参加し組合の基礎を学習

憲法は誰のものなのか 軍事大国化へ警鐘を鳴らす

「憲法はあなたの命と未来のサポーター」をスローガンに5月3日、神戸市みなどのもり公園で、5.3ひょうご憲法集会が開催され、今年はコロナ禍前の集会規模に戻して実施された。主催者を代表してあいさ



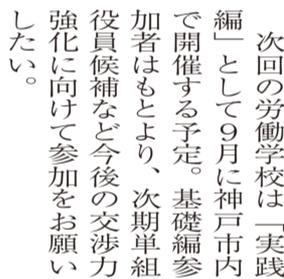
反戦プラカードを掲げる参加者

外交、それが最も合理的な安全保障政策である」と訴えた。神戸市出身で俳優の松尾貴史さんは講演で「憲法は国の骨組みであり、権力を縛り暴走をさせないもの。しかし今、政治家が憲法を変えようとしている。都合が悪いから変えることは、泥棒が刑法を変えるのと一緒ではないか。いま一度、憲法とは何か？語り合う機会が必要」と憲法によって国民は守られていることの重要性を指摘した。

最後に憲法アピールを高校生平和大使の長富日向さんが読み上げ、参加者は平和な日本、平和な世界を作ることをめざしていこうと確認し合った。



グループワークの様子



山下委員長と当選を喜ぶ深田さん

Advertisement for 'じちろう共済' (Jichirou Kyosei) featuring cartoon characters and text promoting their services. It includes the slogan '仕事のスタート、備えのスタート。' and lists services like '団体生命共済', '長期共済', and 'マイカー共済'. It also mentions 'ご入職おめでとうございます!' and provides contact information for the '自治労共済 推進本部'.